

勝俣電事連会長 定例会見要旨

(2007 年 9 月 14 日)

- ◎ 本日、私からのご報告は 2 点です。1 点目は「この夏の電力需給」について、2 点目は「高レベル放射性廃棄物の最終処分地確保に向けた取り組み強化」についてであります。

1. この夏の電力需給について

- ◎ まず、この夏の全国大の電力需要について申し上げます。お手許の資料-1 をご覧ください。

- 10 社計の最大電力は、左上の表のとおり、8 月 22 日の 1 億 7,928 万 kW で、過去 3 番目の記録となりました。各社別では、表の中にアスタリスクを記載してありますが、6 社が記録を更新いたしております。

また、10 社合計の日電力量の最大は、同じ 8 月 22 日に記録した 34 億 2,887 万 kWh で、平成 13 年以来 6 年ぶりに更新いたしました。

なお、各社別でも 4 社で最大記録を更新しています。

- このように電力需要が大きく伸びた要因は、やはり高気温による冷房需要の増加であります。

資料の右上の表をご覧ください。7 月は曇りや雨の日が多く各地の最高気温の欄も軒並み▲(マイナス)印が付いています。一方、8 月は一転して厳しい暑さとなり、熊谷や多治見で最高気温記録を 74 年ぶりに塗り替えたほか、全国 101 の地点で観測史上最高の気温を記録いたしました。

- 暑い日中には、気温が 1℃上がっただけで、全国の最大電力は茨城県の消費電力に匹敵する約 470 万 kW も増加いたしますが、この 8 月は、最高気温が 35℃以上となる「猛暑日」が多かったことが特徴で、10 都市平均で 7.4 日と、平年より 4.3 日も上回っております。

- また、右下のグラフにあるとおり、景気動向を反映する産業用の大口電力需要は、2005 年 8 月からこの 7 月まで 24 ヶ月連続で前年実績を上回って推移しております。

詳しい分析はできておりませんが、こうした景気の堅調さも需要を押し上げた要因であると考えております。

- ◎ 続いて、大変恐縮でございますが、東京電力社長として今夏の電力需給についてご報告させていただきます。

- 7 月 16 日に発生した新潟県中越沖地震により柏崎刈羽原子力発電所が全号機停止したことで、今夏の東京電力の電力需給は大変厳しくなり、皆さまに大変ご心配をおかけいたしました。

厳しい夏ピークは何とか乗り切れたものと考えておりますが、これはひとえに、節電にご

協力いただいた多くのお客さま、当社に電気をお送りいただいた自家発電や電力各社の皆様のご支援とご協力の賜物であり、この場をお借りして、心より厚く御礼を申し上げます。

◎ 今夏の東京電力の電力需給の概要については、お手許の資料-2にとりまとめましたのでご覧ください。

○ 左側の中段のグラフに、東京地方の最高気温と最大電力の推移を示しましたが、8月以降、赤色の折れ線で表示した最高気温が、緑色の点線で示した平年気温を大きく上回り、それにつれて、棒グラフで表示した最大電力の数値も上昇していることがわかりではないかと思えます。

○ このような状況の下で、右側の上段に示したとおり、8月22日の15時には、今夏の最大電力となる6,147万kWを記録いたしました。

当日は、予想を上回る急激な需要の伸びに対応するため、すでに今夏の追加供給力として確保していたものに加え、緊急的に他の電力会社さんから150万kWを融通していただくとともに、平成2年度以来、17年ぶりに随時調整契約を発動し、23軒のお客さまのご協力で14万kWの需要を抑制していただきました。

さらに国土交通省から緊急・暫定的に使用許可をいただいていた塩原発電所を加え、6,400万kWの供給力を確保し、何とか乗り切ることができました。

○ このように今夏は需給の面から見ると非常に厳しい夏でしたが、2頁の中ほどまでに示したとおり、結果的に、過去に記録した最大電力を6年連続で下回りました。これは、お客さまの節電のご協力や、お客さまが私ども以外の事業者と契約を切り替えられていることなどが相まって、過去の記録に及ばなかったものと考えております。

◎ 以上、東京電力の今夏の電力需給についてご報告させていただきましたが、加えて、今冬の電力需給について申し上げます。

最近の冬の最大電力の推移は2頁目の下段にお示したとおりでございますが、今冬においては、現時点で約5,400万kW程度の最大電力が発生する可能性があるものと見ております。これに対する供給力は、現時点で何とか確保できているものの、高経年火力など設備をフル稼働させることもあり、私どもとしては細心の注意を払ってまいりたいと考えておりますが、お客さまには、引き続き、冬においても節電にご協力をお願いしてまいりたいと考えております。

2. 高レベル放射性廃棄物の最終処分地確保に向けた取り組み強化について

◎ 最後に、高レベル放射性廃棄物の最終処分地確保に向けた取り組みの強化について申し上げます。

ご案内のとおり、一昨日に開かれた「総合エネルギー調査会」の「放射性廃棄物小委員会」において、最終処分事業に対する国民の理解や認知度向上を目指した強化策がとりまとめられました。

- 最終処分事業については、原子力発電環境整備機構＝NUMO が実施主体として取り組んでおりますが、今回の強化策は、東洋町の事例などこれまでの反省を踏まえ、「国が前面に出る」という基本方針のもとで、「これまでの公募に加えて国からも文献調査の実施申し入れを行う」「国と NUMO、電気事業者が連携を強化して国民全般に対する広聴・広報活動のさらなる拡充をはかる」など、これまでより一步踏み込んだ対応を求めています。
- 私ども電気事業者は、廃棄物の発生者の立場から、これまでも NUMO に対する人的支援や地域事情についての情報提供等を行ってまいりましたが、今回のとりまとめを踏まえて、今後はさらに国や NUMO との連携を密にして、広報活動や NUMO の活動支援に一層力を入れてまいり所存であります。
- このため、お手許の資料-3 にあるとおり、本日の「総合政策委員会」において、電事連内に「地層処分推進本部」を設置することを決め、当面専任者 5 名にて活動を始めることにいたしました。

具体的な実施内容については現在検討を進めておりますが、事業の安全性や候補地選定手続きに対する国民の理解・認知度向上を図るため、電事連自ら全国レベルの広報活動に積極的に取り組むとともに、電力各社と協力して NUMO の各地域で行う理解活動を支援してまいります。
- 私からは以上です。

2007 年 9 月 14 日
電気事業連合会

今夏の電力需要について

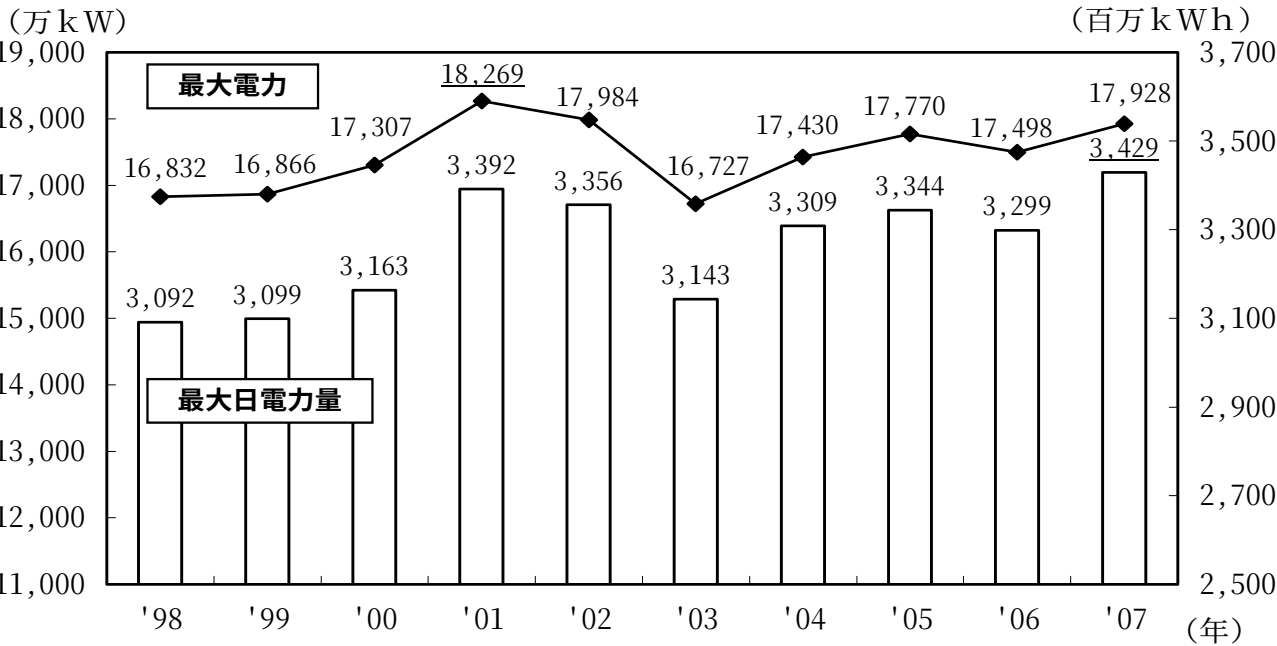
1．今夏の各社需要実績（発電端）

（単位：万kW、万kWh、百万kWh、％）

会社名	最大電力			最大日電力量			発電電力量	
		発生日	前年比		発生日	前年比	(7,8月合計)	前年比
北海道	489	8/8	96.4	10,160	8/9	98.7	5,776	100.1
東北	1,505	8/3	101.9	☆① 28,956	8/3	101.8	15,490	101.8
東京	6,147	8/22	105.9	116,420	8/22	105.9	59,255	102.5
中部	※② 2,797	8/21	103.7	※③ 52,329	8/21	104.5	26,837	101.6
北陸	※① 558	8/9	101.7	☆② 10,725	8/9	101.4	5,567	99.4
関西	3,067	8/22	100.4	57,731	8/21	101.3	30,508	97.7
中国	※① 1,229	8/17	103.1	※① 23,212	8/17	101.2	12,539	100.3
四国	※① 593	8/22	102.1	※② 11,315	8/22	101.7	6,045	99.6
九州	※① 1,762	8/24	100.5	33,478	8/24	99.5	18,321	100.3
沖縄	※① 153	7/11	100.4	※③ 3,196	7/11	102.7	1,805	100.8
10社計	17,928	8/22	102.5	※② 342,887	8/22	103.9	182,142	100.8

（注）1．※は新記録更新，☆は夏季の記録更新，○内の数字は新記録更新回数を示す。
2．発電電力量は7月確報値、8月速報値。

2．10社最大電力と最大日電力量の推移

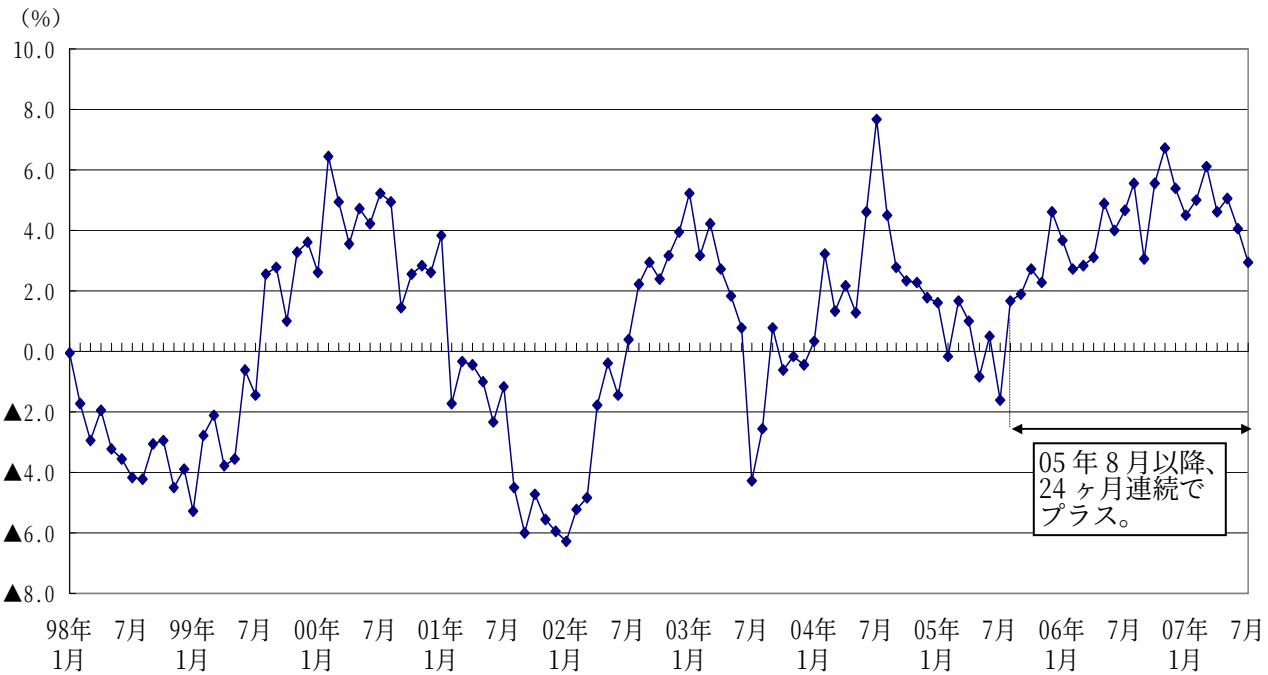


3．10都市平均の最高気温と真夏日・猛暑日・熱帯夜日数

	最高気温(℃)									真夏日(30℃以上)			猛暑日(35℃以上)			熱帯夜		
	7月平均	平年差	前年差	8月平均	平年差	前年差	7・8月	平年差	前年差	日数	平年差	前年差	日数	平年差	前年差	日数	平年差	前年差
札幌	24.2	▲0.8	▲0.9	28.3	2.2	▲0.5	26.2	0.6	▲0.8	9	1.5	▲5.0	0	▲0.2	0.0	0	▲0.1	0.0
仙台	23.8	▲1.9	▲0.7	29.9	2.0	1.4	26.9	0.1	0.4	19	4.0	9.0	1	0.6	1.0	2	1.2	2.0
東京	27.4	▲1.6	▲1.2	33.0	2.2	1.9	30.2	0.3	0.3	35	▲1.2	5.0	7	5.3	4.0	24	3.6	5.0
名古屋	29.2	▲1.3	▲1.1	34.4	2.2	0.8	31.8	0.4	▲0.2	42	▲1.5	▲2.0	14	6.7	0.0	24	11.7	2.0
富山	26.6	▲2.2	▲1.3	33.4	3.0	0.7	30.0	0.4	▲0.3	29	▲1.4	▲6.0	14	10.9	12.0	11	7.0	4.0
大阪	29.7	▲1.7	▲1.1	34.6	1.6	▲0.4	32.1	▲0.1	▲0.8	44	▲6.1	▲5.0	14	6.1	▲3.0	29	0.6	▲12.0
広島	29.1	▲1.7	▲0.7	33.4	1.3	▲0.2	31.2	▲0.3	▲0.5	42	1.4	▲1.0	7	4.4	0.0	21	5.4	▲15.0
高松	29.7	▲1.0	▲1.5	33.8	2.1	▲0.2	31.8	0.6	▲0.8	43	▲1.5	▲6.0	11	6.7	▲3.0	24	12.5	▲12.0
福岡	29.9	▲0.8	▲1.0	33.7	2.1	0.7	31.8	0.6	▲0.2	45	2.2	0.0	6	2.4	0.0	29	4.3	▲10.0
那覇	32.5	1.2	0.5	31.5	0.6	▲0.5	32.0	0.9	0.0	56	4.9	▲2.0	0	0.0	▲1.0	58	5.2	▲2.0
10都市	28.2	▲1.4	▲1.0	33.3	2.1	0.9	30.7	0.3	▲0.1	36.4	0.2	▲1.3	7.4	4.3	1.0	22.2	5.1	▲3.8

（注）10都市の気温は加重平均値、真夏日・猛暑日・熱帯夜は単純平均値。

4．大口電力需要の伸び率の推移



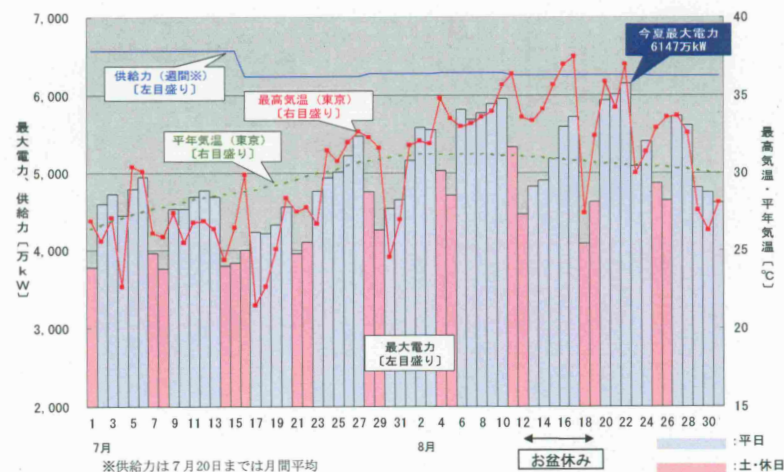
平成19年9月14日
東京電力株式会社

東京電力の今夏の電力需給について

1. 今夏（7～8月）の気象状況・特徴

- 7月は、梅雨前線が関東南岸に停滞、全般的に雨や曇りの日が多くみられ、梅雨明けも平年に比べ12日ほど遅れるなど（今年：8/1頃、平年：7/20頃）、概ね平年を下回る気温水準で推移した。
- 一方、8月は、8月1日の梅雨明け以降、太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日が続き、特に中旬を中心に最高気温が35℃を超える「猛暑日」が度々発生するなど、平年を大幅に上回る気温水準となった。
- なお、東京地方の8月の月平均最高気温は33.0℃となり、明治9年（1876年）の観測開始以来4番目の高水準となった【過去最高は平成7年8月の33.7℃】。

2. 今夏の気温ならびに最大電力の推移



<最高気温の推移（旬別平均）>

(°C)

	7月				8月			
	上旬	中旬	下旬	月間	上旬	中旬	下旬	月間
今年	26.8	25.9	29.5	27.4	33.4	34.3	31.6	33.0
平年	27.5	28.7	30.6	29.0	31.1	31.0	30.4	30.8
前年	28.4	29.4	28.1	28.6	31.6	31.3	30.5	31.1
平年差	▲0.7	▲2.8	▲1.1	▲1.6	2.3	3.3	1.2	2.2
前年差	▲1.6	▲3.5	1.4	▲1.2	1.8	3.0	1.1	1.9

※気温は東京地方の最高気温

<今夏の最大電力実績>

順位	日付	曜日	最大電力	（発生時間）
1位	8月22日	水	6,147kW	15時
2位	8月21日	火	6,013kW	15時
3位	8月10日	金	5,951kW	15時
4位	8月20日	月	5,938kW	15時
5位	8月9日	木	5,885kW	15時
6位	8月6日	月	5,814kW	15時
7位	8月8日	水	5,770kW	15時
8位	8月27日	月	5,732kW	14時
9位	8月17日	金	5,726kW	15時
10位	8月7日	火	5,689kW	15時

3. 今夏の最大電力の発生状況

- 今夏の最大電力は、お盆期間を除く平日のうち今夏最高となる37.0℃（東京地方の最高気温）を記録した8月22日（水）15時に発生した6,147kW。
- これは、前年度実績（H18.7/14（金）：5,806kW）を341kW上回った。

<今夏最大電力発生時（8月22日）の状況>

○最大電力：6,147kW（37.0℃：東京）

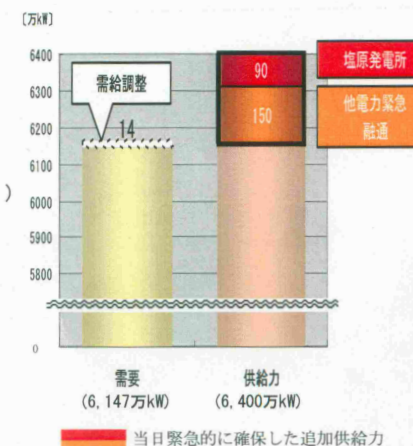
<主な緊急対応策>

- ・随時調整契約に基づく需要抑制 14万kW

○供給力：6,400万kW（予備力253万kW（4.1%））

<主な緊急対応策>

- ・他電力からの緊急応援融通 150万kW
- ・塩原発電所の緊急・暫定運転 90万kW



[供給力および需要面での対策]

<追加的な供給力>

対 策	7月	8月	9月
発電所の増出力運転 等	78	236	188
他電力からの応援融通受電	135	166	156
自家発の余剰購入	71	72	70
合 計	284	474	414

<需要面の対応>

対 策	7月	8月	9月
計画調整契約 ^(注)	130	130	130
随時調整契約（推定）	108	127	128

^(注) 計画調整契約は最大電力見通しの中に織り込み済み

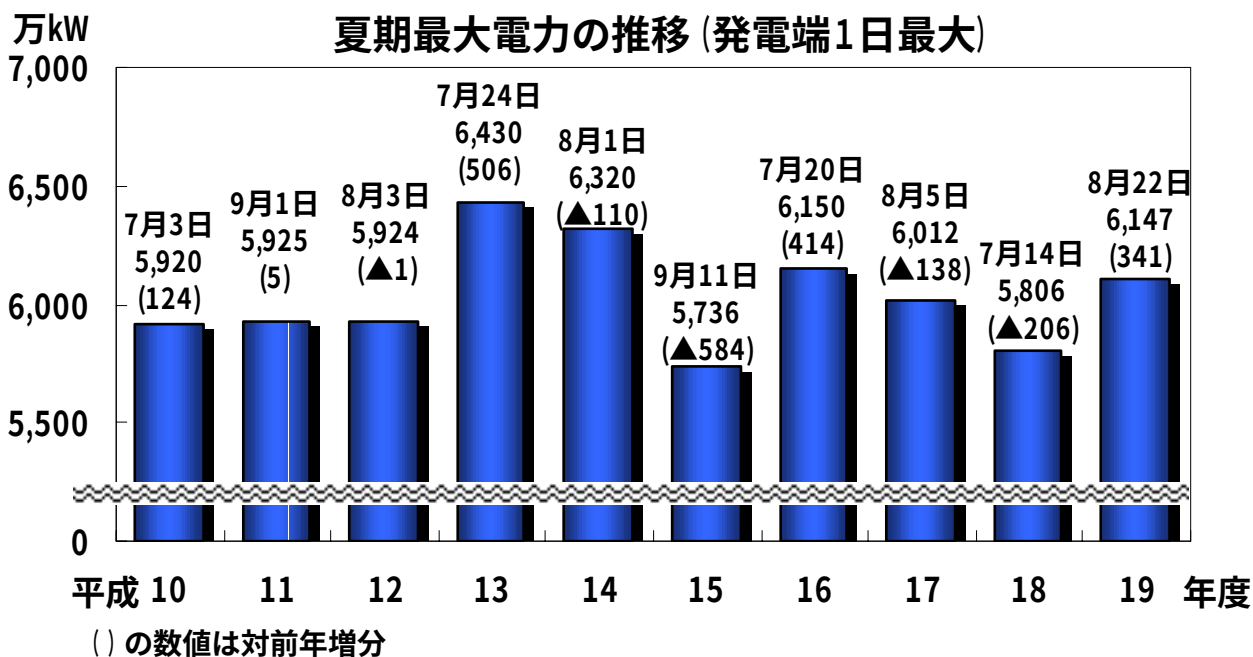
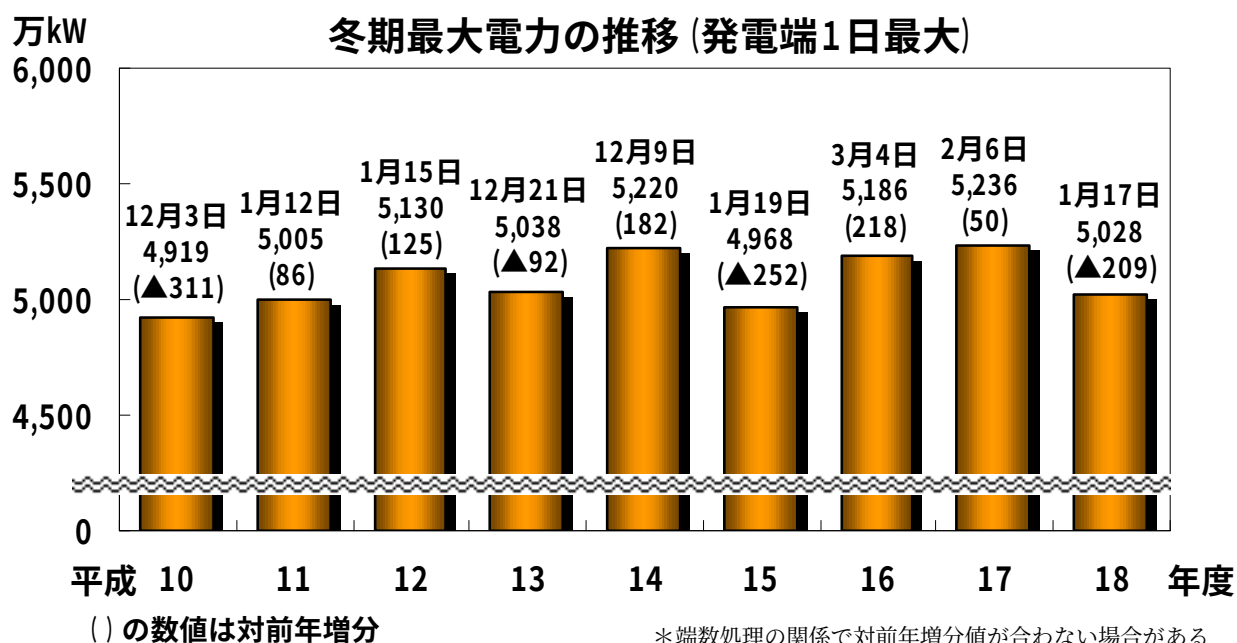
<需給逼迫時の緊急・暫定対応>

関係の皆様のご理解・ご協力により、違法取水により水利使用許可取り消しの行政処分を受けた塩原発電所（90万kW）について、緊急・暫定措置として使用許可（7/30～9/7）をいただいた。

<参考>

今夏の最大電力（8月22日：6,147万kW）が過去最大（13年7月24日：6,430万kW）を更新しなかった要因としては、

- ①節電にご協力いただいたこと
 - ②離脱需要が13年度に比べ増加したこと
 - ③最大発生日の最高気温が過去最大発生日を下回ったこと
- などの影響によるものと考えている。



以 上

2007年9月14日
電気事業連合会

「地層処分推進本部」の設置について

電気事業連合会は、9月14日付けで、以下のとおり「地層処分推進本部」を新たに設置いたしました。

1. 名 称：「地層処分推進本部」
2. 目 的：「放射性廃棄物小委員会報告書中間とりまとめ」(平成19年9月12日)を踏まえて、最終処分事業の安全性や候補地選定手続きに対する国民の理解・認知度向上を図り、最終処分地確保に向けた原子力発電環境整備機構（NUMO）の活動を支援する。
3. 業 務：従来より実施してきた NUMO に対する人的支援や地域事情についての情報提供等に加え、国や NUMO と連携して以下の業務を実施する。
 - ・全国レベルの広報活動
 - ・電力各社と協力して、NUMO が各地域で行う理解活動支援
4. 体 制：理事 地層処分推進本部長 杉山 一弥 以下専任者 5 名で活動を開始。電気事業連合会内の関係各部が活動を支援する。

